

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (45) (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後 藤 寛

アメリカといえばスペイン語の国でもある。今日もメキシコからの移民が増えている。新大陸は元来は土着のインディアン語(Indian)とスペイン語(Spanish)が話される土地であった。今回は3例を見てみるが、(3)では前回と同じように時間をさらに以前にさかのぼり英語・スペイン語対照で Trump 大統領の在任中の言説内容の軌跡を追ってみる。

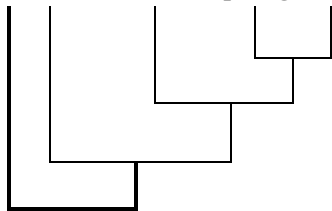
- (1) We are here on this beautiful spring day to unveil our plan to create a fair, modern & LAWFUL system of immigration for the U.S. If adopted, our plan will transform America's immigration system into the pride of our Nation and the envy of the modern world. (May 16, 2019)

▲「春の良きこの日に公正で、近代的な、そしてアメリカにとって合法的な移民制度をつくる計画を公表するが、もし採択されればわれわれの計画は米国の移民制度を変え、国家の誇りと現代世界の羨望となろう」という内容である。

文頭での We are here ... to ... という deictic category (直示範疇) として切り出す英語の言い方に注目しておくといよい。幅広く使える英語的なものである。

二重下線とした部分 on this beautiful spring day の英語の言い方にも注目しておいてよい。日本語ではいろいろ言えようが、英語の場合は word order (語順・語配列) が固定していて次のように5語の句が単一ユニット(one unit)に収束する。

on this beautiful spring day



「見ること」が原義でラテン系の Basic 語 **view**、プラス α Basic 語 *vision, visa* (ビザ・査証) などは同系。また、ラテン系の un-Basic 語 *video, provision, supervise, evidence, etc.* が同系。PIE の音素形は/WEID/とされ、[w]をもつゲルマン系のプラス α Basic 語 *witness*、un-Basic 語では *wit, witch* (魔女)、*wizard* (男性魔法使い) などが同系である。なお、不思議に思えるかもしれないが Basic 語 **guide** も同系で、これはやはり同系語の *disguise* (変装する) {dis (= not) + guise (= be seen)}とも結びつく。guise (見せかけ) は元来は「服装」の意味でもあったことを英語史は教えるが興味深い。注目しておいてよい〔さらに他の多くの例は同上拙著、第二部、例(67)参照〕。

(2) The Democrats now realize that there is a National Emergency at the Border and that, if we work together, it can be immediately fixed. We need Democrat votes and all will be well! (May 17, 2019)

▲「民主党議員はやっと国境が国家非常事態であり、われわれが共に努力すればすぐ事態は改善されることに気づいてきている。われわれは民主党の票が必要で、そうなれば万事うまくいくのだ!」という内容である。民主党の国境問題に対する認識が変わった?

今回この tweet 例を発話されたものと考え、英語の語配列(word order)にできるだけそったいわゆる同時通訳風の日本語では「民主党員が目下分かってきていることが国境での国家非常事態であること、そしてもしわれわれが協力しあえばこれは改善されます。われわれが必要なのは民主党票であり、それで万事はうまくいくのです」のようになる。

ここで「必要なのは ... であり」としたが、こういう日本語は英語を同時通訳風にできるだけ語順に忠実に訳出するような場合に有益なものである。これは英語に頻出する *what* を用い *wh*-節とするいわゆる *pseudo-cleft sentence* (疑似分裂文) と並行する。ここでの末尾の文例 *We need Democrat votes* の部分を *what* を用いると同時に Basic の範疇で言えば What we are in need of is the Democrat's support などとなる。

太線語 *emergency* (緊急) は筆者独自に考えた上記、英語同系語パノプティコン(PPE)からすれば Basic 語 **mark** と同系で、元来は水の深さに関わる基準 (水準) であった。プラス α Basic 語 *margin* (縁・端)、un-Basic 語 *merge* (溶け込む・合併する)、*marine* (海の)、*marsh* (沼地) などが同系である。*emergency* の *e-* は *out* の意味で、水が下からあふれ出てくるような語感がある〔同上拙著、第二部、例(76)参照〕。

太線語 *immediately* は本連載(20)の(2)で扱ったが、PPE からは Basic 語 **mind** と同系であるし、**memory, middle, medical, meal** なども同系。病は昔は心で祈るしかなかったし、食事は朝・昼・晩の一定の時間帯に思いを寄せた。PIE *etymon* の音素形は/ME/ (MENS/, /MON/) で、心の中のあり方のことで原義は「思いをはせること」である。

immediately は{im (= not) + med (= mind, middle) + iate + ly}と要素分解され「心の中に間 (ま) がない」→「すぐさま」の意味。なお、この *immediately* の語尾にも前々回に注目した[tli]音が現れる。[tli]音は同じ音素 phoneme /tli/の異音 allophone に特別に注目すべきである。また、[tli]は[dli]とはやはり微妙に響きが違い有声音[d]では声帯がかすかにではあるが振動する響きとなる(例、*firstly* の[tli]と *secondly* の[dli] などの相違)。

immediately は *demonstrate* (見せる)、*monster* (怪物) などとも同系語で、要するに「見せて心の中で思わせ、考えさせること」である。*the Mediterranean Sea* (地中海) の *Mediterranean* にも *med* があるが{medi (= middle) + terrane (= land) + an}で、「大陸と大陸の間をとりもっている海 → 地中海」である。このあたりも本連載(20)の(2)で確認済み〔さらに他の多くの同系語の例は同上拙著、第二部、例(28)参照〕。

〔以下、スペイン語翻訳版もある tweet (2018.01-05)より — 2言語対照〕

(3) Melania and I are deeply saddened by the death of Thomas S. Monson, a beloved

President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. (January 3, 2018)

cf. Melania y yo lamentamos profundamente la muerte de Thomas S. Monson, el amado Presidente de la Iglesia de Jesucristo de los Santos de los Últimos Días. (3 de enero, 2018)

▲「妻のメラニアと私は、末日聖徒イエス＝キリスト教会（モルモン教会）の敬愛するトーマス・S・モンソン管長の死去を心から悔やんでいる」という内容である。

モルモン教(Mormonism)は預言者 Mormon の名に因むが、1830 年に Joseph Smith が創設したと伝わるキリスト教一派で、ユタ州の Salt Lake City に本山をもつ。日本でも布教されているのでよく知られている。

この文も発話されたものし、やはり英⇒日の同時通訳風には「妻メラニアと私が深い悲しみを抱きますのがトーマス・S・モンソン氏の死去であります。氏は敬愛される末日聖徒イエス＝キリスト教会（モルモン教会）の管長でありました」のようになる。ここでも「抱きますのが ... であります」としたが、英語で *Melania and I are deeply saddened by the death of* の部分を上の(2)で注目した *pseudo-cleft sentence*（疑似分裂文）を用いると同時に Basic で言えば What makes Melania and I deeply sad is the death of のようになる。こういう *what* は英語で大変重宝である。一般の英語や Basic で *what* を用い事柄がサラリと言えることはきわめて多い。本連載で一々取り上げてはいないが、Trump 氏の特徴ある英文をすべて Basic ならどう言うかももちろん常に背景で意識している。政体上の固有名詞などが多少多くはなるが Basic ですべて内容は言えると思う。

一方、英文を読んで理解できても英音に耳の開いている通訳者などとは違い、音声で理解するとなると話はまた別となる。特に本国で本格的な英語修行を志すなら現地で戸惑わないよう市販の語学テープではなく、生の音環境での英語の録音ものばかりを聴取するのが賢明。ただし、一人の発話ではなく何百人にもよる発話スタイルの音声への注目が必要で、同一人の発話を何度聴いていてもあまり効果は得られない。今日、世界中で話される英語の発話スタイルと音声は人により厳密にはすべて異なり千差万別。呼吸気道(respiratory tract)全体が共鳴箱(sound box)となるそのメカニズムの追究で、特に早口発話の英音の響きに注目し、易→難ではなく難→易の反復 trainingが必要となる。

録音で同一文の同一人物による発話を 10 回くり返し聴くより、同一文の 10 人による発話を 1 回聴くほうが実際にははるかに効果的なはず。十人十色の音声から音素をすくい取り聴覚を研ぎ澄まし英音に鋭敏にすることになる。外国語修得論(foreign language acquisition theory)での注目点となろう [本会 *Year Book* No.73(2021)、拙稿参照]。

米国の構造主義言語学者 K. L. Pike 風には *emic* (< phonemics)と *etic* (< phonetics)の違いともなるが、人により異なる響きの allophone (異音)を同一音素(phoneme)として元の音素をすくい取っていくのである。この過程は文字の場合と並行させれば分かる。たとえば日本語文字（漢字・ひらがな・カタカナ）も書体は楷書・行書・草書などがあり、個人で筆跡や書体・字体も異なる。しかしそういう *allograph* (異書体)から *grapheme*（書記素）を感知しその都度、同文字として読み取れる。*native* の草書体でステレオ音(stereophonic)的な本物英音の響きは日本人の楷書体のモノラル(monophonic)な響きの英音とは味・香りが違う。日本人の英語を「沢庵(たくあん) 英語」と評する人もある。

英音の allophone から phoneme をすくい取っていくということであるが、*hearing* 上の障壁を破るには膨大な数の *infortnants* (資料提供者)を必要とする。最も効率よくそれが得られるのはもちろん本国の風土の中での生活体験となるが、その点では英語に比べスペイン語は日本人の民族聴覚でも楽に音感が獲得でき上達も早い。

太線とした英語 *beloved* (敬愛する) などの *be-* にはやや強意のニュアンスが加わるわけであるが、これは拡張 Basic (Wider Basic) の範疇としてもよからう。Basic で *undo*, *undone*, *undergo*, *undertake*, *overtake* などもっと積極的に用いられてよい Basic 語がいくつもある。なお、*beloved* に対応するスペイン語 *amado* は、英語の *amateur* (愛好家)、*amiable* (愛らしい) などと同系である。

cf. の文中のスペイン語 *lamentamos* (< *lamentar*), *profundamente*, *último(s)* はそれぞれ *lament*, *profoundly*, *ultimate* が対応する英語 (parallel English words) であるし、*muerte* (< *morir*) = *death* と同系の英語に *mortician* (葬儀屋) などもある。

英語という言語を考える上で少なくとももう 1 つ同系の西洋語を並行させると、さらに英語そのものもよく透けてくる。これが英語以外の外国語修得の大きな効用である。大学での第 2 外国語履修の意義もここにある。まったくの一例で旧約聖書の一書に *Ecclesiastes*『伝道者の書』があるが、*ecclesiastes* はスペリングを含め難しい語と言える。しかし語根部の *ecclesi-* とは「聖職者、教会」 (= Basic 語 *church*) の意味で、ラテン系スペイン語で「教会」は *iglesia* である。このあたりから意味は簡単に類推できてしまう。

英語で物事を考えるとき、Basic とともにスペイン語など他の西洋語と並行させもすると思いが楽になる。日本人にとり英語は修得の難しい言語であるが、スペイン語は英語の約 20 倍はやさしいだろう。ポーランドの眼科医 L. L. Zamenhof が 1887 年に世界共通語 (international common language) として創案した人工言語 *Esperanto* (エスペラント) は英語の約 50 倍やさしいというのが学会の通説でもあるが、*Esperanto* 語の修得は西洋言語の研究にはその基盤となり少なくともその大枠の把握ぐらいは必須と言える。

なお、3) での英語名 *Jesus Christ* はスペイン語では必ず 1 語で *Jesucristo* と言う。

(演習) 本連載 (41) ~ (45) より

I) 次の各々① ~ ⑩の Basic 語(イタリック体はプラス α Basic 語)と同系の他の Basic 語は下の a) ~ j) のうちどれか (すべて扱ってきたもので、瞬時に見定めたい)。

- | | | | | |
|-----------------|------------------|------------------|---------------|------------------|
| ① law | ② than | ③ against | ④ but | ⑤ engine |
| ⑥ secret | ⑦ regular | ⑧ copy | ⑨ <i>envy</i> | ⑩ medical |
| | | * | * | * |

- | | | | | |
|-------------------|-------------------|--------------------|----------------|----------------|
| a) again | b) general | c) increase | d) low | e) mind |
| f) opinion | g) out | h) rule | i) then | j) view |

II) 上の I) ⑨ *envy* は Basic でのプラス α 韻文・聖書用語 150 語中の聖書用語としての 1 語であるが、次の語中に Basic でのプラス α 韻文・聖書用語のいずれでもない語 (un-Basic 語) が 1 つある。それはどれか (やはり本連載ですべて扱ったもの)。

cattle, child, dream, evening, heaven, husband, people, plan, robe, witness, world

.....
仮に筆者が本連載のようなテーマの下で Basic を大学の教室で扱っているとすれば、前期・後期の試験問題の 1 つには必ずこういう演習例 [特に I) のもの] を出題するであろう。簡単で学生は後期には要領をつかみほぼ満点で成績「優」も多数ではずだろう。

[正解] I)

① d)	② i)	③ a)	④ g)	⑤ b)	⑥ c)	⑦ h)	⑧ f)	⑨ j)	⑩ e)
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

II) ここでは plan のみが un-Basic で他はすべて韻文・聖書用語としてのプラス α Basic 語。Basic 言語の全体系把握に BBE (*The Bible in Basic English*) は必須であるが、150 語の韻文・聖書用語がどの頁にも繰り返し頻出し、これなしには 910 頁の BBE は 1 頁たりとも成立しない。

